

(6) 同和問題と保育

同和問題は同和地区の出身であることや、そこに住んでいることを理由に、結婚や就職その他の社会活動においていわれのない差別や不利益な取り扱いを受けることがあるという、基本的人権にかかわる重大な問題です。

同和問題に関しても、地域や職業などについての偏ったものの見方が生まれたり、いじめや排除といったことが起こらないよう見守っていく必要があります。

保育者は、同和問題を同和地区の人だけの問題ではなく、すべての人に関係がある身近な人権問題であることを正しく認識することが大切です。

人権保育の視点

- ・ 自分自身や家族を大切に思う心、自分が生まれ育った地域に誇りを持てるように育てる。
- ・ 自分が家族や地域を大切にするように、他の子どもそれぞれに大切にすることがあることに気づくようにする。
- ・ 職業に関する正しい認識と公平な見方が子どもたちに育っていくようにする。

具体的な対応

- ・ 住んでいる地域や出身、家庭環境で、子どもたちの間に決めつけや偏った見方が生まれないようにする。
- ・ 働くことの大切さ尊さを子どもが正しく理解できるようにする。
- ・ 教材や行事のなかに、偏見や差別を助長したり、心を傷つける部分がないか十分考慮する。
- ・ 保護者の会話の中に、特定の子どもの家庭、地域に対する偏見が見受けられる場合には、状況に応じて適切な啓発に努める。

伝統行事や季節の風習の意味を正しく理解して伝えていきましょう

節 分

鬼は悪者、こわいものとして子どもたちに知らせ、鬼を退治することをねらいにした行事になっていませんか。

本来の意味は、日本の農耕社会が春の節季を迎え入れるために、邪気払いをし、厄除けをして「家内平穩」を願う行事として行ってきたものです。あの子は悪い子、鬼と一緒にだね、というように差別意識をもたせないような配慮が必要です。



桃の節句

豪華なひな飾りを飾って、お祝いをするだけになっていませんか。

本来の意味は、人形に人間のケガレを吸い取らせて川や海に流す、ケガレをはらうまじないの一種である「みそぎ」からおこったものです。

それが江戸時代になると、身分差別をあらわす段飾りとして定着してきました。ただ単に女の子のおまつりといった意識だけでなく、子どもたちの健康を願うおまつりとして、子どもたちに伝えていきたいものです。



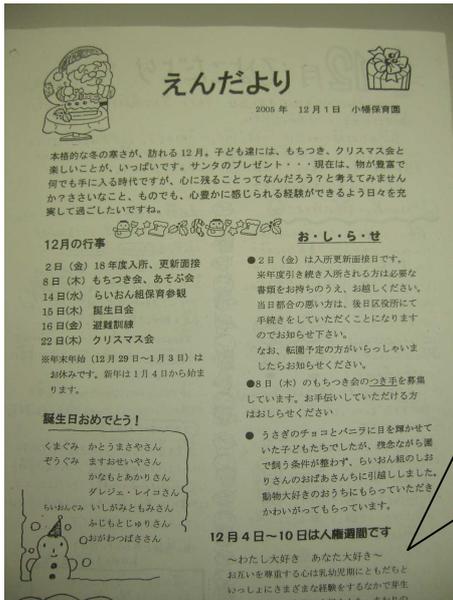
端午の節句

鯉のぼりは、男子の立身出世を願う武家社会のまつりとして、武家人形や鯉のぼりが飾られ、今日にいたったものです。戦後国民の休日となってからは、男の子の節句というより「こどもの日」として位置づけられています。

子どもたちが協力しあって鯉のぼりを作り、園庭にあげたりする取り組みもいいかもしれません。



園だよりなどを活用して人権啓発コラムの掲載をしましょう



12月4日～10日は人権週間です

～わたし大好き あなた大好き～
お互いを尊重する心は乳幼児期にともだちといっしょにさまざまな経験をするなかで芽生えていきます。自分に自信をもち、まわりの人々の存在を認めて大切にする心を育てていきたいと思います。

1948年12月10日国連総会で「世界人権宣言」が採択されたのを記念して「人権週間」が定められ、名古屋市でもさまざまな行事が開催されますので、ぜひお出かけ下さい。

豊かな職業観を育てましょう

職業に優劣はありません。どんな職業も私たちの生活に欠くことのできない大切なものです。子どもたちに職業に対して差別や偏見をもたせないようにしましょう。

乳幼児期に体験する遊びと労働は、子どもが大きくなった時、さまざまな職業があって社会がなりたっているということ、どれも大切なものであるということを感じる基礎になります。



子どもは体を動かす事が大好きです。そして何か役立ちたいという気持ちをもっています。その気持ちを大切にしながらこんなことをしてみましょう

- * 小動物の世話
- * 菜園活動
- * 当番活動
- * 家のお手伝い



当番活動



菜園活動

子どもたちが労働に価値を見いだすことのできる感性を育てるために、地域と連携した日常の取り組みが大切になってきます。

- * 地域の中で働いている人を見にいきましょう。
- * 働いている人の話を聞いてみましょう。

